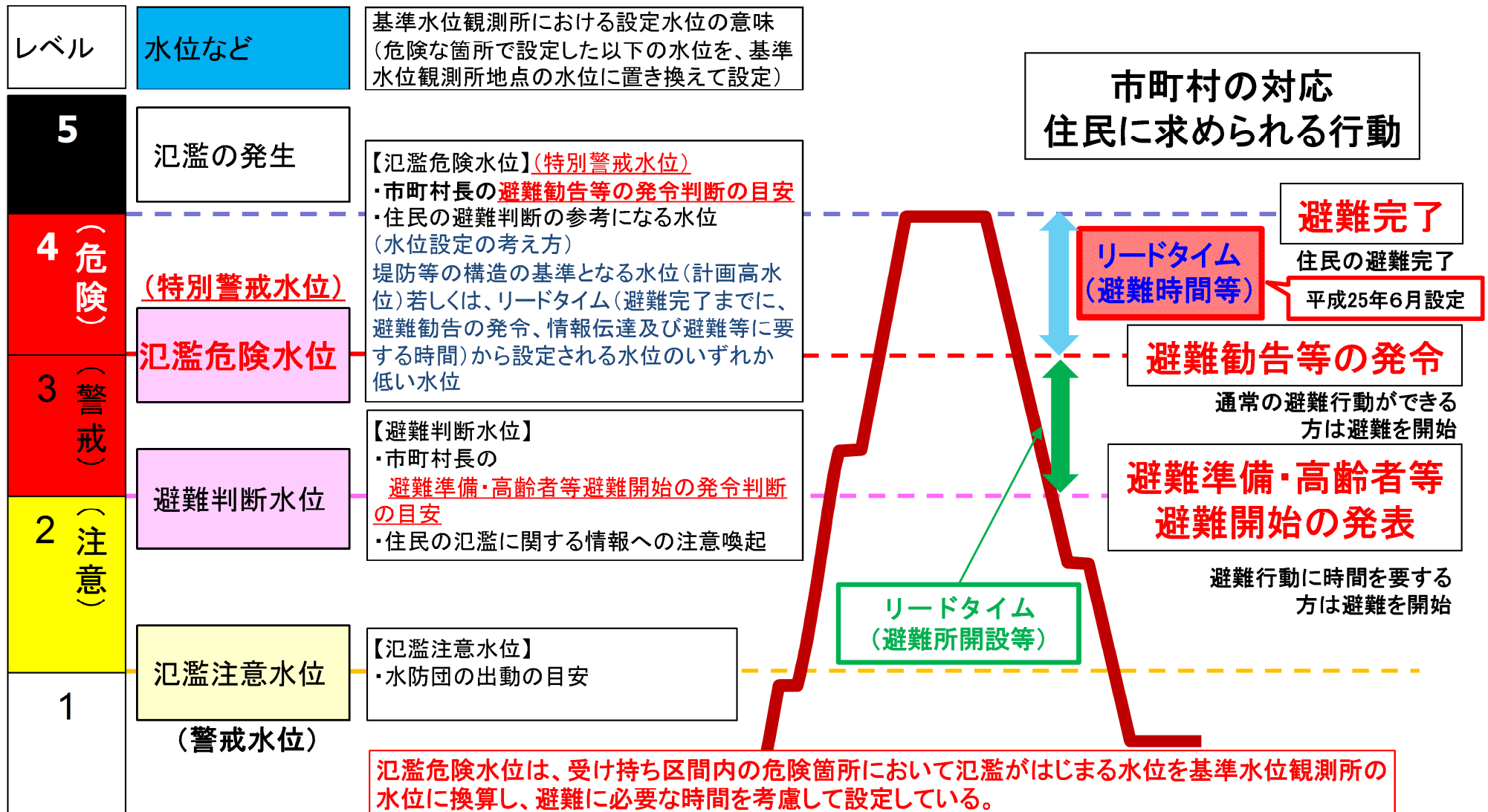


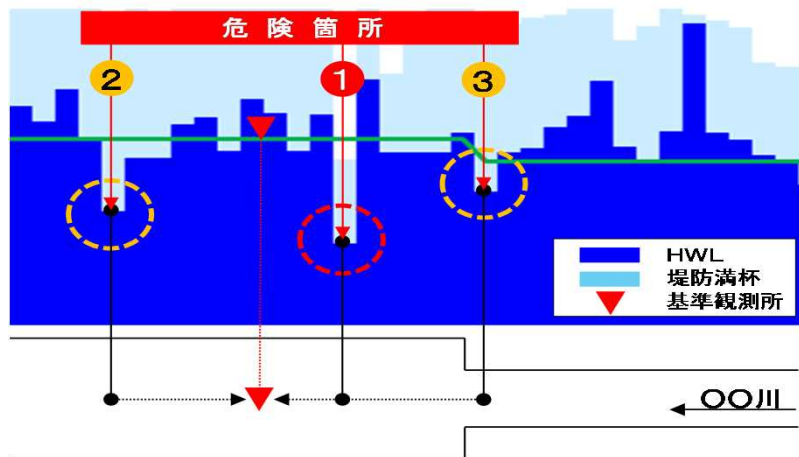
1. 基準水位観測所における設定水位の考え方

- 国や都道府県は、洪水時において、予め定められた「**基準水位観測所**」における水位の情報を提供。
- **基準水位観測所**毎に、災害発生の危険度に応じた**基準水位**を設定。



2. 基準水位の見直し方法について

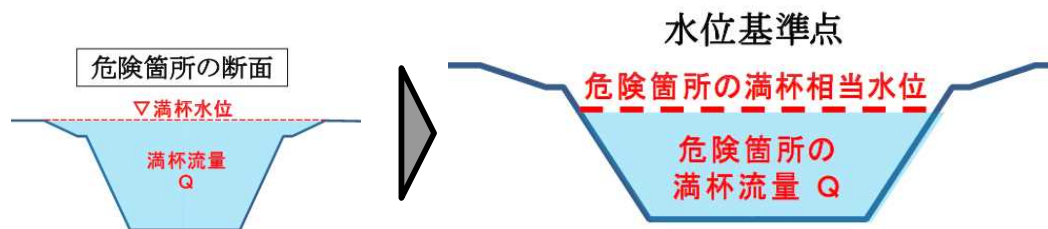
① 流下能力を整理し、危険箇所を選定する。
⇒ 既存LPデータ等を利用



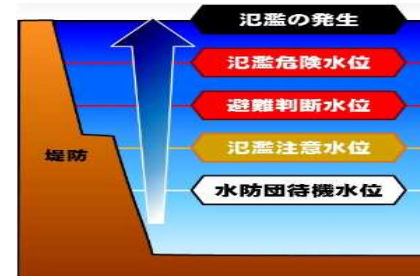
③ 洪水浸水想定区域図でのリードタイム(避難時間等)検証
⇒ 市町ヒアリングによる検証



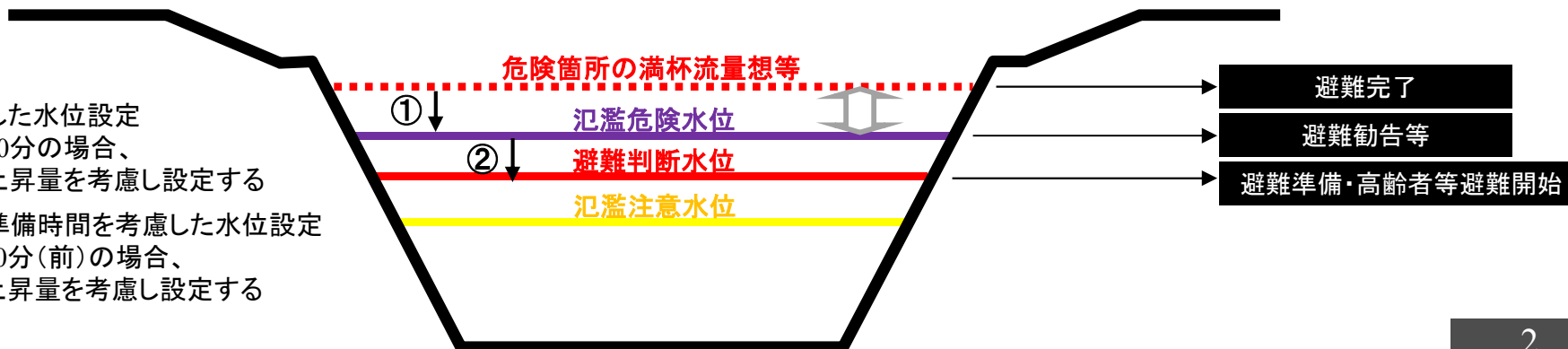
② 各危険箇所の満杯流量を水位基準点において水位換算する。



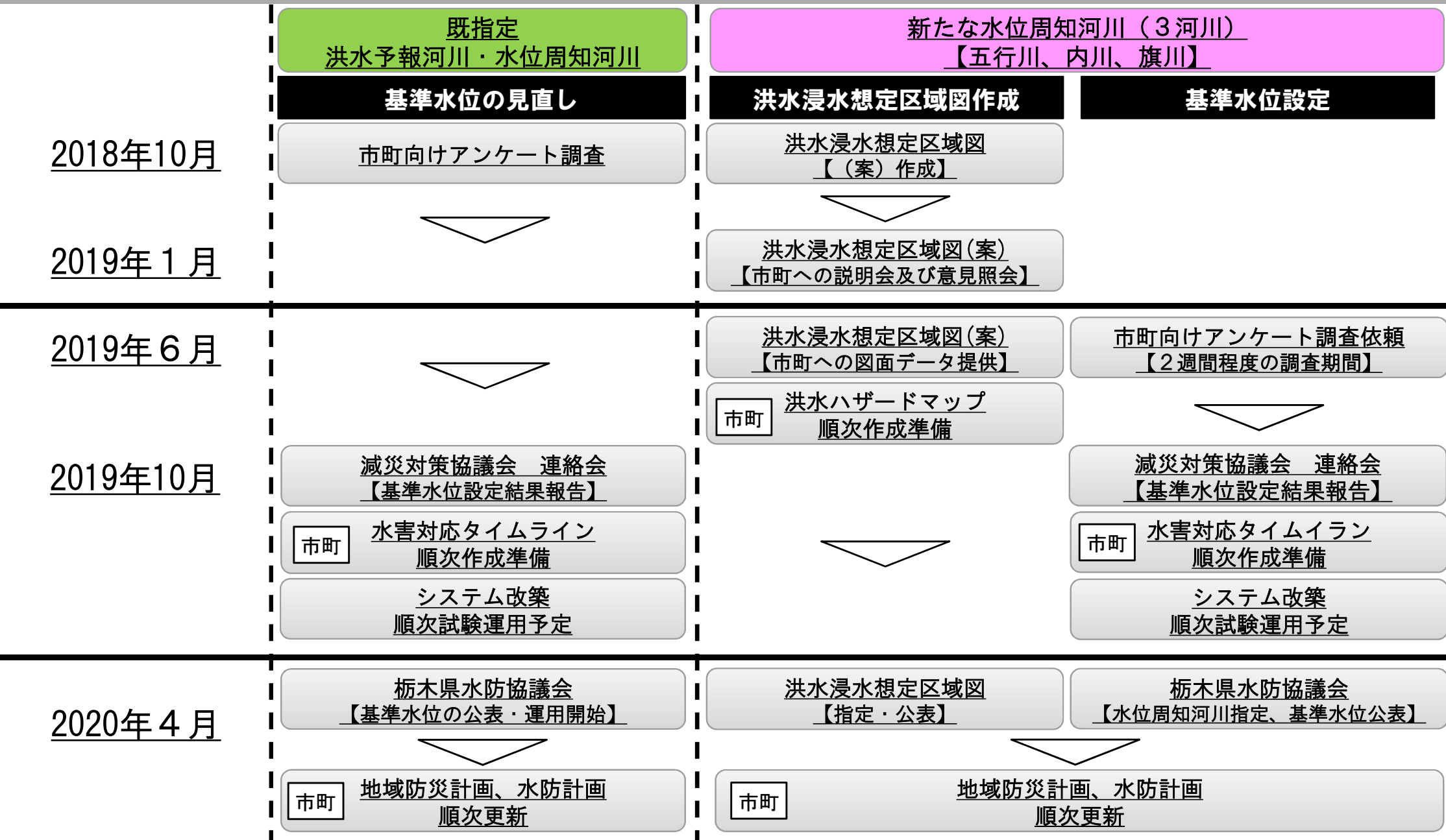
④ 過去の洪水から水位上昇の速度検証
⇒ 水位観測データによる検証



- ① 避難時間を考慮した水位設定
[例] 避難時間が60分の場合、
60分の水位上昇量を考慮し設定する
- ② 避難所開設など準備時間を考慮した水位設定
[例] 避難準備が30分(前)の場合、
30分の水位上昇量を考慮し設定する



3. 基準水位設定等のスケジュール（案）



※緊急行動計画にある「リスク情報の空白地帯の解消」の方策として、国から「中小河川における簡易的な水害リスク情報作成の手引き（H30.12）」が示されたことから、県は今後、対応方針等について検討していく。